

音楽科学習指導案

指導者 尾道市立栗原小学校

- 1 学年 第6学年 32名
2 題材名 豊かな表現を工夫して歌おう
～栗原小の伝統をつなごう～
3 教材名 「明日を信じて」 小林 真人 作詞・作曲
4 題材の目標

- 歌詞の内容や、曲想の変化を感じ取りながら歌う学習に興味・関心を持って意欲的に取り組む。
- 旋律、強弱、音楽の縦と横の関係などを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を思いや意図をもって工夫することができる。
- 歌詞の内容や曲想を生かし、全体の響き、伴奏を聴き声を合わせて歌うことができる。

5 学習指導要領とのかかわり

第5学年及び第6学年

- 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。【 A 表現 (1) イ】
 - 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。【 A 表現 (1) エ】
- [共通事項] (1) ア 旋律、強弱、音楽の縦と横の関係

本題材で育成する資質・能力 ～ 思考力・表現力・主体性・積極性

(1) 題材観

本題材は、歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取ったりしながら表現方法を工夫し、より豊かな合唱を目指すことをねらいとする。

歌唱教材「明日を信じて」は、語りかけるようにことばのリズムを生かす部分や高音と低音が重なる部分、かけあう部分と、曲想の異なる3つの部分で構成されている。歌詞の内容は、日常の生活場面の様子や、夢や希望に満ち仲間と共に力強く未来へ進んでいこうという気持ちを表現しており、卒業を控えた児童にとって共感できるものである。また、言葉の区切りやブレスの位置から、フレーズのまとまりを考えることもできる。よって、歌詞の内容や曲想の変化等の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素のうち「旋律」「強弱」「音楽の縦と横の関係」に着目させ、楽曲全体の構成を見通しながら表現の工夫を考えることに適した教材である。

この楽曲は、平成27年10月に実施された「第11回尾道市芸術祭小学校音楽コンクール」の課題曲であり、憧れの6年生が練習している様子を覚えている児童も多い。その演奏の聴取や、本年度の音楽コンクールに向けての学習での学びを手掛かりに、児童が見通しをもって主体的に取り組む、思いや意図をもって表現方法を考え、伝統である歌声を5年生につなげようというねらいにせまることが期待できる。

(2) 児童観

本学年の児童は、お互いの表現の良さを認め合う温かい雰囲気の中で、7月初旬から音楽コンクールに向けての練習にとりくんできた。声量は少ないものの、自然で無理のない響きのある声で歌うことは概ね定着している。歌唱領域についての実態調査（平成29年7月実施）の結果は次の通りである。

- 「歌唱が好きである」 65%
- 「歌詞の内容に合った表現を考えて歌う」 54%

このような結果や授業中の児童の歌唱の聴取から、思春期に入り表情豊かに歌うことを恥ずかしく思い、自分を表現することを苦手とする児童も多いことが伺える。また、歌詞の内容から思い描いたイメージになるように歌うことや、音楽を形づくっている要素を振り所に言葉で表したり、歌い方を工夫したりする活動についても課題が残る。そこで、6年生までの学習や第13回尾道市芸術祭小学校音楽コンクールに向けて学んだことを生かして、一人一人が見通しをもち、友達と協働しながら試行錯誤し、創意工夫して主体的に表現する能力をさらに高めていきたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、「栗原小の伝統の歌声をつなごう」と、これまでの卒業生が築きあげてきた美しい歌声や豊かな表現方法を5年生につなぐことを意識させ、「明日を信じて」のビデオメッセージを作成することを題材のゴールとして設定する。その際、児童と学習の見通しを共有しながら進めていく。

一次では、まず、6年間の学びの集大成として在校生に伝統の歌声をつなげるための楽曲を選ばせる。次に、あこがれの先輩の演奏を聴取し、思いや意図が相手に伝わるように歌う表現の仕方を感じ取らせるとともに、自分たちの表現の課題を見つけさせる。次に、栗原小の伝統の歌声を作り上げるために心がけていることや工夫したことを、ビデオメッセージの作成に生かすことができるように考えさせる。その際に、5年生の3学期に、6年生から教わった経験を想起させ、5年生に伝統の歌声をつなげるために、自分たちに何ができるかを考えさせる。

二次では、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素に着目し、よりよい表現の工夫をすることができるように試行錯誤させる。思いや意図をもたせる過程においては、歌詞の朗読を取り入れて作詞者の思いを考えたり、自分が一番好きな部分を見つけ「このように歌いたい。」とイメージをふくらませたりする。表現の工夫をする場面においては、先輩の演奏から学んだことや、コンクールの練習で学んだことを生かして考えをもたせる。学習形態としては、児童一人一人が考えをもった後、グループ活動に取り組みせ、お互いの考えを尊重し、歌い試しながら話し合う場を設定する。また、ねらいとする音楽的価値に向かって、深まりのある協働的な学びができるように楽譜ボードを活用し、一人一人の考えを書き込んで可視化し、グループや全体で共有させる。

6 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①歌詞の内容や、曲想の変化を感じ取りながら歌う学習に興味・関心を持って主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ等を感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ等を感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫している。	①呼吸や発音の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理の無い、響きのある歌い方で歌っている。 ②歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌っている。

7 育成しようとする資質・能力とのかかわり

【思考力・判断力・表現力】

- ・歌詞の内容を生かしたり、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取ったりし、表現方法や歌い方を工夫する力。
- ・音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取り、思いや意図をもって歌う力。

【主体性・積極性】

- ・題材のゴールを設定し、歌詞の内容や曲想に合った歌い方になるように、表現方法を工夫しようとする力。
- ・自らの表現と友達の表現との共通点や相違点などを比較・関連させ、よりよい合唱表現に向けて友達と協働する力。

8 題材の計画 (全5時間)

次	時	教材	学習活動	評価規準 (評価方法)
第 次 (2時間)	第一時	明日を信じて	情報の収集1 ○卒業を4ヶ月後に控え、6年間の学びの集大成として在校生に伝える歌声という視点で、教科書の中にある数曲から選ぶ。 ・「明日を信じて」は、中学2年生の人たちが、6年生が音楽コンクールで歌っていたよ。 ・コンクールで練習したことを生かして、自分たちの力で歌い方を考えることができるかな。 ・コンクールの練習の時に、まず、歌詞をしっかりと読み込んで、作詞者の言いたいことを考えたね。 ○各パートを歌い、歌詞の内容や曲想を捉える。 ・大切な言葉は何か。何が一番言いたいことなのか。 ・歌詞の意味が分かったら、次は各パートの音取りをしよう。 ・旋律がよく分からないから、旋律を弾いてもらおう。 ・歌詞のまとまりや旋律から、どこまでが1つのフレーズか考えることも必要だよ。	アー① (演奏の聴取・発言内容)
	第二時		情報の収集2 ○歌詞の内容や、曲想の変化を感じ取りながら二部合唱する。 ・コンクール歌っているのを聴いてみたいね。 ・自分たちの演奏と比べると、どんな違いがあるかな。 ○「第11回尾道市芸術祭小学校音楽コンクール」での6年生の演奏と自分たちの演奏を比較聴取する。 ・ブレスが揃っているから、歌詞の入りがはっきりしているよ。 ・口をしっかりと開けているから、歌詞が分かりやすいね。自分たちは、口の開け方が小さくて、歌詞が分かりにくいから、しっかりと口を開けるよう意識しよう。 ・歌詞の内容によって、顔の表情も変わっているよ。 ・  、  、  で、曲想が変わっていることがよく分かる演奏だよ。 ・歌声を聴くと、どんな思いをもって歌っているか、伝わってくる感じがするよ。	ウー① (ワークシート・発言内容)

	第二時	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の時に、伝統の歌声をつなぐために、どんなことに気を付けて歌っているか、教えてもらったね。 ・コンクールでは、自分たちも伝統の歌声をつなぐことはできたと思うよ。今度は自分たちが5年生につなげる番じゃないかな。 ○伝統をつなげるために、自分たちにできることを考える。 ・励ましてあげたいから、お手本の演奏やメッセージを作るといいね。 ・メッセージには、歌詞や旋律から、工夫をしたことを伝えよう。 ・音楽コンクールの学習を生かして、この曲の歌い方をみんなで考えよう。 <p style="text-align: center;">課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオメッセージを作って、伝統の歌声を5年生につなげよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 歌い方の工夫を考え、栗原小の伝統の歌声をつなげよう。 【学習課題】 表現の仕方を工夫して思いを伝えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○5年生へのビデオメッセージを作成するという、題材のゴールイメージを持たせる。 	
第二次	第三時	<p style="text-align: center;">整理・分析(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンクールでの学習をふり返り、表現を工夫するための見通しをもたせる。 ・みんなで歌ったところは、言葉を大切に歌ったよ。 ・コンクールで勉強した時は、まず、曲の構成を考えたいよ。 ・イの部分は、問いと答えになっているね。 ・ウは、曲の山だね。2つの旋律が、重なっているよ。 ・コンクールの課題曲にも似たところがあったよ。その時、アルトは少し弱く歌ってバランスをとったよ。 ○児童の意思を尊重し、一番工夫したい部分から表現の工夫をする。 ・一番盛り上がる曲の山から考えたいな。 ・ウの「つながっている」のところは、付点のリズムがあるから、コンクールで歌った自由曲の、「銀河系を二億年ずつ」のところみたいに、弾んで歌うといいね。でも、スタッカートじゃないよ。 ・最後の「明日を信じて」のところは、曲名にもなっているから、1番伝えたいことだよ。同じfだけど、ウの初めと違って、決意が伝わるようにもっと力強く歌おう。 	イー① (ワークシート・発言内容)
	第四時	<p style="text-align: center;">整理・分析(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習をふり返り、歌詞の内容や旋律の特徴、曲の構成を生かした表現の工夫をする。 ○イの部分についてアやウと対比させながら、「旋律」「強弱」「音楽の縦と横の関係」に着目し、自分たちの話し合った思いや意図を表現するための工夫を考える。 ・問いと答えになっているから、語り合うように歌おう。 ・ウの旋律(曲の山)に向かってイの最後の部分は音が高くなっているから、エネルギーの高まりが感じられるようクレシェンドしよう。 ○グループで考えた表現の工夫を交流する。その際、聴く視点を明確にし、自分たちの演奏と比較聴取する。 <p style="text-align: center;">本時(4/5)</p>	イー② (ワークシート・演奏の聴取)
	第五時	<p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各グループの合唱のよさを見つけながら聴き、クラスで一つの表現にまとめる。 ・コンクールの時に勉強したことを生かすと、自分たちの思いが伝わるように歌えたよ。 ・ビデオメッセージで、5年生に栗原小学校の伝統の歌声を伝えよう。 	ウー② (演奏の聴取)

9 本時の展開 (4/5時間)

(1) 本時の目標

歌詞の内容や曲想、旋律の特徴から、歌い方の工夫をすることができる。

【音楽表現の創意工夫】

(2) 学習の展開

	学習内容と学習活動 (○) 予想される児童の姿 (・)	指導上の留意点 (○) つまづきへの支援 (・)	評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 課題意識をもつ。 ○前時までの学習をふり返り、全曲を通して歌う。 ・アとウの部分は自分たちで考えた歌い方の工夫を生かして歌う。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>○アとウの部分の表現の工夫を振り返らせる。</p> <p>○題材のゴール、栗原小学校の伝統の歌声をつなげるためのビデオメッセージを作成することを確認する。</p>	
	<p>歌詞の内容や曲想の変化、旋律の特徴に合った表現の仕方を工夫しよう。</p>		
考える	<p>3 学習の見直しをもつ。 ○表現の工夫の仕方の視点を確かめる。</p> <p>4 歌唱表現の工夫をする。 ○歌詞の内容や曲想、旋律の特徴に合った表現にするために、イの部分の旋律の特徴を捉え、個人で強弱や歌い方の工夫をする。 ・「あの雲は」の旋律は問いと答えになっているから、話しかけるようにやさしく歌おう。 ・ウの旋律 (曲の山) に向かってイの最後の部分は音が高くなっているから、エネルギーの高まりが感じられるようクレシェンドしよう。 ・「どこから来たのだろう」のアルトは、ソプラノを支える音だから、主旋律をかき消さないよう、やさしく歌おう。 ○個人の考えを交流した後、歌い試しながらグループで工夫を考える。</p>	<p>○歌詞の内容や、音楽を形づくっている要素の中でも「旋律」「強弱」「音楽の縦と横の関係」に着目させ、視点を明確にし、どのような工夫が必要か考えさせる。</p> <p>○前時の学習をもとに表現の工夫を考えさせる。 ・掲示物で聴取の学習を振り返らせ、特徴を捉えやすい問いと答えに着目させて考えさせる。 ・歌詞の内容から情景を想像しながら歌えるよう、「どんな雲？どちらに向かって流れている？高さはどのくらい？」「どんな風が吹いている？」とイメージをもたせる働きかけをし、歌い方や強弱に結びつける。 ・旋律の流れから、イがウに向かっていたり、上向形の旋律の動きから、気分がどんどん高まっていることに着目させる。 ・楽譜ボードに書き込みをして可視化させる。 ・曲想や旋律の特徴に合った表現の工夫を交流した後、歌い試すように促す。 ・ア→イ、イ→ウをつなげて歌うように声かけをし、曲想の変化が感じられるか考えさせる。</p>	音楽表現の 創意工夫 イ② (ワークシート・ 演奏の聴取)
	<p>5 グループで考えた表現の工夫を交流する。 ○歌い手と聴き手に別れて交流する。</p>	<p>○曲想の変化による表現の違いを意識させるため、聴き合う視点を明確にして比較聴取させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・歌詞の内容にあった歌い方ができているか。 ・問いと答えの部分 (あの雲は) は、どのように歌っているか。 ・主な旋律は、どのように聴こえているか。 ・ア→イ、イ→ウの、曲想の変化が感じられるか。</p> </div>	
繰り返す	<p>6 本時の学習で学んだことを振り返り、次時の活動の見直しをもつ。</p>	<p>○本時のめあてを振り返り、ワークシートに記入させる。</p>	
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童のまとめ例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あの雲は」のところは、mpくらいの強さでやさしく歌うと、雲がふわふわ浮かんでいる様子を表すことができた。また、旋律が問いと答えになっているから、友達と話しているように歌うと相手に伝わった。 ・イ→ウの、曲想が変化している部分は、旋律が上がっていくところをクレシェンドすると、「どこへ行くのだろう」という気分がどんどん高まっていく様子を伝えることができた。 ・次は、みんなの思いが1つになるように、自分たちの「明日を信じて」を仕上げ、伝統の歌声をつなげるビデオメッセージを作りたい。 </div>		<p>・次回は、各グループの表現の工夫を交流し、ビデオメッセージ作成のため、全体で一つの表現にまとめることを知らせる。</p>